

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第5回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会 調査報告

給食センターの 管理状況について

【給食センターの現状】
給食センターの本年度稼働日数は209日が予定されており、毎日910食を調理し、各学校等へ配送を行っている。

学校給食の献立にも特色があり、地元産の食材を活用した「十勝清水恵み給食」、卒業生を対象とした「バイキ

ング給食」等がある。また、食物アレルギーをもつ児童・生徒に対して除去食等の提供を行うなど、きめ細かな配慮もされていた。

そのほか、試験圃場

を活用した作物収穫体験の実施など、食育を含め、正しい食事の取り方や、望ましい食習



給食センターの調理場を視察

慣を身につけさせる努力も行われている。

【管理運営上の課題】

岩見沢市の食中毒事故を受け、保健所と道教委による一斉調査が

行われ、調理従事者用も設置後10年を超えてあり、現在も修理しながら使用しているため、修理費用がかさみ、更新を必要とする機器も生じている。

しかし、毎年、保健所からは指摘されている床の改修等は、財政的にも、同様の体制で調理問題から応急措置による補修にとどまり、完全な解決には至っていない。事故が生じてからでは遅いので、早期の対策が望まれる。また、大型調理機器

産業厚生常任委員会 調査報告

町営育成牧場の 現状と課題について

【町営育成牧場の現状】

町営育成牧場の平成22年度受入頭数実績は、夏期放牧で1日平均1962頭、冬期舎飼では1日平均1002頭となっている。本年度は受入頭数枠を超えた申込みがあり、一部は近郊の公共育成牧場へ受入れをお願いしている状況である。

る。

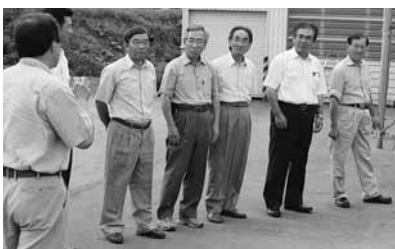
【今後の課題】
同牧場は開設して43年を迎え、畜舎や作業機械の更新、粗飼料の確保、従業員確保等の課題が山積している。

使用料について管内の公共育成牧場と比較すると、本町は、夏期放牧が1日あたり260円、冬期放牧が1日あたり200円、冬期舎飼では610円で最上位の使用料となっているが、使用料等の収入で運営経費を賄っていない状況である。

判断していくべきである。また、本年度に牧場用地を取得したが、将来に向け取得計画を立てる必要があると思われる。

経営状況をみると人件費が総経費の約4割を占めている。従業員

の多くは臨時的任用のため、若い人からの応募はほとんどなく、今後、従業員の確保が難しい状況も見込まれる。近年、多くの公共育成牧場では、管理主体を町から他団体に移行しており、本町でも指定管理者制度導入によるコスト削減とサービス向上について検討していくべきである。



円山・北清水両団地を視察